

金沢犀川ワイズメンズクラブ 2019年6月第一例会卓話

世界連邦運動と YMCA 活動

平口 哲夫

世界連邦運動協会（以下、世連と略称）に入会した経緯については『世連石川』第29号の「世連に入会して」で述べ、また、戦争・平和の問題に取り組むに至る原点とも言える生い立ちについては世連石川県連合会2015年度理事会・総会で講話したことがある。一方、金沢犀川クラブのブリテン2010年2・3・5・6月号と2011年1月号に「世連クリスチャン」、2012年5・6月号に「世連とワイズメンズクラブ」と題して投稿。また、中部部長として公式訪問した名古屋東海クラブ2013年1月第一例会では、「世連とYMCA・ワイズメンズクラブ」と題して卓話。同様の卓話は、2015年10月16日開催の東京世田谷クラブ10月第一例会でも「世連とクリスチャニティー」と題して行なった。これらは、別に配布する資料に収録してあるので、参考にさせていただきたい。

私は1961年4月に泉丘高校の聖書研究会（ハイスクールYMCA）に入会、1965年6月に東北大学の学生YMCAに入会、1983年に金沢YMCAに入会、そして世連(WFM of Japan)に入会したのが2003年3月であるから、YMCA歴のほうがWFM歴よりもずっと長い。しかし、YMCA活動を平和運動という観点から強く意識するようになったのは、WFM (World Federalist Movement) に携わってからのことである。

日本YMCA同盟基本原則は三つの使命を謳っている。第一に「すべてのいのちをかけたえのないものとして守り育てる」、第二に「一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求める」、第三に「世界の人びとと共に平和の実現に努める」。この三つの使命は、平和学で定義された「積極的平和」に通じる。「積極的平和」とは、安倍首相の主張する「積極的平和主義」とは似て非なるものであり、「戦争がない状態」(消極的平和)だけでなく、経済・政治的安定、基本的人権の尊重、政治的自由と政治プロセスへの参加、快適で安全な環境、豊かな生活が確保されている状態を意味する。

WFMは、第二次世界大戦末期に広島と長崎に原爆が投下されたことを切っ掛けに、原子物理学者のアインシュタイン博士を筆頭とする科学者・文化人の提案により、1946年10月にルクセンブルグに集まって国際的な運動組織が結成されたのが始まりである。翌1947年、モンロー宣言が採択され、国連では果たせない機能を持たせた世界連邦政府の実現をめざしている。1948年には、日本でも世界連邦運動が立ち上がり、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士、「憲政の父」と称された尾崎行雄氏、「協同組合の父」と称されたクリスチャンの賀川豊彦氏らが参画し、尾崎が会長、賀川が副会長に就任した。

現在、私は、世連本部の執行理事、理論・政策委員長、NEWSLETTER 編集副委員長、石川県連合会理事長などを兼務している。

(金沢犀川ワイズメンズクラブ ブリテン 2019年6月号から転載)